

主要施策名:(1)健康づくりの推進

事務事業本数:11

基本目標(章)	主要施策(節)	施策区分	事務事業コード	事務事業	所管課
⑤健康で安心な福祉づくり	(1)健康づくりの推進	(4)保健・医療体制の充実	514-2	自殺対策推進事業	総合福祉課
			514-3	岱明ふれあい健康センター管理運営事業	保健予防課
			514-4	横島総合保健福祉センター「ゆとり一む」運営管理事業	保健予防課
			514-7	保健センター管理運営事業	保健予防課
		(2)健康な体づくり	512-2	フッ化物洗口事業	保健予防課
		(3)食育の推進	513-1	食育推進事業	保健予防課
		(2)健康な体づくり	512-3	健康増進事業	保健予防課
			512-4	がん検診事業	保健予防課
			512-5	レディース検診事業(乳がん・子宮頸がん)	保健予防課
		(3)食育の推進	513-2	食生活改善推進員協議会事業	保健予防課
		(1)保健活動の拡充	511-3	利用者支援事業(母子保健型)	保健予防課

《事務事業の手段と活動指標》 [18]

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
① 自殺予防相談会業務	臨床心理士による相談会を実施する。	相談会実施回数	回	18	16	16	16
② 自殺予防啓発事業	広報紙等で啓発を行う。	啓発実施回数	回	1	1	1	1
③							

《コスト評価による年度比較》 [19]

コスト評価	対象(市民)	H28年度決算		H29年度決算		H30年度決算		H31年度予算	
		投入コスト合計(千円)	対象1単位あたりのコスト(千円)	コスト評価(対前年比)	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画	
		67577	0	***	67242	0	99.42%	66850	0
		2,013	0	102.72%	1,950	0	(↑)	1,950	0

《事務事業の成果》 [20]

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標
			H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
1 臨床心理士相談件数	臨床心理士による相談件数	件	—	32	32	32
			29	24	21	—
2 玉名市自殺者数	玉名市の自殺者数	人	—	0	0	0
			14	15	15	—

* 成果未達成時の理由 相談については急遽欠席等があり成果達成はできなかった。自殺者数については今後も相談を通して自殺予防対策を行っていく。

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 [21]	<input type="checkbox"/> ・市が実施するよう法令等で義務づけられている <input type="checkbox"/> ・法令等で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> ・市が事業へ関与する必要が薄れている <input checked="" type="checkbox"/> ・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> ・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる <input checked="" type="checkbox"/> ・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> ・事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> ・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない		妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
効率性 [22]	<input type="checkbox"/> ・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> ・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> ・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である <input type="checkbox"/> ・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> ・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> ・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
有効性 [23]	<input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標を設定している <input type="checkbox"/> ・成果指標の目標値を達成した <input type="checkbox"/> ・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない <input type="checkbox"/> ・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる <input type="checkbox"/> ・法定事務であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> ・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> ・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> ・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある		有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
公平性	<input type="checkbox"/> ・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】 <input checked="" type="checkbox"/> ・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input checked="" type="checkbox"/> ・設定できない理由(受益者負担はなじまない) [24]		

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 [25]	相談については家族や本人からのSOSでもあり、必要に応じて福祉サービスへ繋げることもできるため、相談内容に応じて経過観察を行っている。また啓発活動としてH30年度においては市1階において「迎えるいのち」写真展を開催した。		
今後の方向性 [26]	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	総合判定	A
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	臨床心理士による相談件数は減少傾向にあるが、依然として玉名市の自殺者数は全国的にも高く、今後も臨床心理士による相談は必要である。自殺予防に繋がる啓発を今後も行う。令和元年度においては、自殺対策計画書の策定、自殺予防の講演会、写真展を行い啓発に努める。		
次年度への予算反映(連動)	<input checked="" type="checkbox"/> ・増額 (細事業名) 3-1-1-4 自殺対策推進事業 <input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄 [27]

評価責任者(課長)の所見	令和元年度で「自殺対策計画書」を策定予定。自殺者は減少傾向にあるものの、近年は若年層の自殺が問題視されており、県の補助事業で必要な事業である。	評価責任者 渡邊一正
--------------	---	---------------

《事務事業の手段と活動指標》 [18]

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
① 岱明ふれあい健康センター指定管理業務	指定管理者による施設の管理運営を行う。	開館日数	日	307	310	308	310
② 岱明ふれあい健康センター維持管理業務	指定管理者との協定に基づき市が施設の修繕等を行う。	修繕件数	件	6	2	2	0
③ ふれあい健康センター空調及び照明改修工事	カーボン・マネジメント強化事業を活用した空調や照明等の改修工事。30年度に南側の空調照明、31年度に北側の空調照明を改修する	工事件数	件	***	***	1	2

《コスト評価による年度比較》 [19]

コスト評価	H28年度決算		H29年度決算		H30年度決算		H31年度予算	
	対象(入館(利用者)者数)	62339	53813	49397	49397			
投入コスト合計(千円)	31,828	30,954	78,198	173,806				
対象1単位あたりのコスト(千円)	1	1	2	4				
コスト評価(対前年比)	***	88.76%	(↓)	36.34%	(↓)	44.99%	(↓)	

《事務事業の成果》 [20]

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標
			H28実績	H29実績	H30実績	H31実績
1 入館(利用者)者数	入館(利用)者の延べ人数	人	57273	57000	53813	49397
			62339	53813	49397	
2						

* 成果未達成時の理由 岱明地区の人口減少、および空調工事実施による館内の部分休館のため。

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 [21]	<input type="checkbox"/> ・市が実施するよう法令等で義務づけられている <input type="checkbox"/> ・法令等で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> ・市が事業へ関与する必要が薄れている <input type="checkbox"/> ・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> ・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる <input checked="" type="checkbox"/> ・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> ・事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> ・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない		妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い c
効率性 [22]	<input type="checkbox"/> ・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> ・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> ・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である <input type="checkbox"/> ・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> ・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> ・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
有効性 [23]	<input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標を設定している <input type="checkbox"/> ・成果指標の目標値を達成した <input type="checkbox"/> ・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない <input type="checkbox"/> ・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる <input type="checkbox"/> ・法定事務であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> ・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> ・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> ・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある		有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い c
公平性	<input type="checkbox"/> ・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】 <input checked="" type="checkbox"/> ・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input checked="" type="checkbox"/> ・設定できない理由(受益者負担はなじまない) [24]		

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 [25]	施設の老朽化もあり、空調故障が多発していたため、中規模修繕として本館南側の空調工事を実施した。		
今後の方向性 [26]	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	総合判定	C
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	ニング室の特定天井改修を実施する。利用者は減少を続けておりH30年度は5万人を下回ったが、空調修繕工事によって利用環境の改善を図り成果達成を目指す。		
次年度への予算反映(連動)	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄

評価責任者(課長)の所見 [27]	岱明町公民館の建設計画と並行しながら、今後の指定管理者の委託を検討していく。	評価責任者 酒井 史浩
-------------------	--	----------------

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
① 横島総合保健福祉センター「ゆとりーむ」指定管理業務	指定管理による施設の管理を行う	開館日数	日	336	337	335	338
② 横島総合保健福祉センター「ゆとりーむ」維持管理業務	指定管理者との協定に基づき市が施設の修繕等を行う	修繕件数	件	6	5	6	4
③ 横島総合保健福祉センター「ゆとりーむ」空調設備改修事業	空調改修のための設計委託、本体工事を行う	設計・工事件数	件	1	2	1	1

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H28年度決算		H29年度決算		H30年度決算		H31年度予算	
	対象(交流センター、トレーニングセンター利用者数)	134702	136629	135246	135246			
投入コスト合計(千円)	66,455	62,712	67,260	140,408				
対象1単位あたりのコスト(千円)	0	0	0	1				
コスト評価(対前年比)	***	107.49%	(↑)	92.29%	(↓)	47.90%	(↓)	

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標
			H28実績	H29実績	H30実績	H31実績
1 交流センター、トレーニングセンター利用者数	交流センター、トレーニングセンター利用者の延べ人数	人	133248	134702	136629	135246
2 保健福祉センター利用者数	保健福祉センター利用者の延べ人数	人	16630	20400	20727	17203
			20442	20727	17203	

* 成果未達成時の理由 空調工事によるホールの部分休館のため

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	市が実施するよう法令等で義務づけられている	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	法令等で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	市が事業へ関与する必要が薄れている	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
有効性 【23】	<input type="checkbox"/>	利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
公平性	<input type="checkbox"/>	事業開始当初の目的から変化してきている	c
	<input type="checkbox"/>	事業開始当初の目的から変化してきている	
公平性	<input type="checkbox"/>	厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	c
	<input type="checkbox"/>	コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している	
公平性	<input type="checkbox"/>	直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	c
	<input type="checkbox"/>	民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である	
公平性	<input type="checkbox"/>	電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある	c
	<input checked="" type="checkbox"/>	サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	
公平性	<input type="checkbox"/>	現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	c
	<input checked="" type="checkbox"/>	成果指標を設定している	
公平性	<input type="checkbox"/>	成果指標の目標値を達成した	c
	<input type="checkbox"/>	現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない	
公平性	<input type="checkbox"/>	手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる	c
	<input type="checkbox"/>	法定事務であり成果は求めにくい	
公平性	<input type="checkbox"/>	事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	c
	<input type="checkbox"/>	事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している	
公平性	<input type="checkbox"/>	国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	c
	<input type="checkbox"/>	国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	
公平性	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> 金額が妥当 <input type="checkbox"/> 金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】	【24】
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> 設定できる <input checked="" type="checkbox"/> 設定できない理由(受益者負担はなじまない)	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	H28年度からH32年度にかけて空調など劣化している設備の修繕のため、カーボンマネジメントを利用した改修を行っている。H30年度は多目的ホールの空調を改修した。また、老朽化したトイレ・故障した換気扇などの修繕を実施している。		
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続	<input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	総合判定 C
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	3年間の利用人数をみると、利用者数はほぼ横ばいが続いており地域の施設として根付いていると考えられるが、施設の故障による修繕が目立つようになってきている。故障・修繕での利用者への影響を抑えるように、指定管理者と協力しながら現状維持を行っていく。利用者の安全や影響が大きい修繕から優先して実施し、利用人数の目標達成を目指していく。		
次年度への予算反映(連動)	<input type="checkbox"/> 増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> 減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄

評価責任者(課長)の所見 【27】	公共施設配置計画に基づき、横島地区のふれあいの場として現状のまま事業を継続する。しかしながら、築20年を超え修繕が多発している状況にあり、地域の施設として利用者も多いため、指定管理者と協議しながら利用者の安全や影響が大きい修繕から優先して実施していく。	評価責任者 酒井 史浩
-------------------	--	----------------

《事務事業の手段と活動指標》 [18]

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
① 保健センター管理運営事業	光熱水費・修繕・委託・工事などにより保健センターの維持管理を行う	修繕・委託・工事等件数	件	***	***	12	6
② 保健センター駐車場拡張事業	駐車場の不足に対応するため、隣接地の土地(1127㎡)を購入し新たに駐車場整備を図る。	不動産鑑定等実施件数	件	***	***	1	***
③							

《コスト評価による年度比較》 [19]

コスト評価	H28年度決算		H29年度決算		H30年度決算		H31年度予算	
	対象(入館者数(利用者数))	0	0	10892	10892			
投入コスト合計(千円)	0	0	6,502	4,218				
対象1単位あたりのコスト(千円)	0	0	1	0				
コスト評価(対前年比)	***	0.00%	(-)	0.00%	(-)	154.15%	(↑)	

《事務事業の成果》 [20]

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標
			H28実績	H29実績	H30実績	H31実績
1 入館者数(利用者数)	入館者数(利用者数)	人	***	***	10725	10892
2			***	***	10892	

* 成果未達成時の理由

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 [21]	<input type="checkbox"/> ・市が実施するよう法令等で義務づけられている <input type="checkbox"/> ・法令等で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> ・市が事業へ関与する必要が薄れている <input type="checkbox"/> ・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> ・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる <input checked="" type="checkbox"/> ・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> ・事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> ・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない		妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
		<input type="checkbox"/> ・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している <input checked="" type="checkbox"/> ・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> ・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である <input type="checkbox"/> ・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> ・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> ・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い a
有効性 [23]	<input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標を設定している <input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標の目標値を達成した <input type="checkbox"/> ・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない <input type="checkbox"/> ・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる <input type="checkbox"/> ・法定事務であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> ・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> ・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> ・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある		有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
		<input type="checkbox"/> ・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】 <input checked="" type="checkbox"/> ・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input checked="" type="checkbox"/> ・設定できない理由(受益者負担はなじまない) [24]	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 [25]	H30より保健衛生総務費から保健センター管理事業費を分けて、維持管理費用を算出できるようにした。大ホール空調が劣化をしていたため、工事を実施した。		
今後の方向性 [26]	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	総合判定	A
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	築30年を超えており、突発的な修繕が発生しているが、利用者の安全や影響が大きい修繕から優先的に対応し、施設の維持管理を行っていく。		
次年度への予算反映(連動)	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄

評価責任者(課長)の所見 [27]	保健センターでは、利用者に不便をかけないよう施設の維持管理を行っていく。また保健センター駐車場拡張事業については、地権者との土地売買交渉が不調に終わり事業を廃止した。	評価責任者 酒井 史浩
-------------------	---	----------------

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
① フッ化物洗口事業	年中児・年長児は週5回、児童・生徒は週1回フッ化物洗口液を使用し1分間ぶくぶくうがいを行う。	フッ化物洗口実施者数	人	5138	5120	5205	5150
②							
③							

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	H31年度予算			
	対象(保育園・幼稚園の年中・年長児、小中学校児童・生徒)	5954	5945	5859	5800		
	投入コスト合計(千円)	5,456	4,851	6,068	6,187		
	対象1単位あたりのコスト(千円)	1	1	1	1		
コスト評価(対前年比)	***	112.30%	(↑)	78.79%	(↓)	97.09%	(↓)

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標
			H28実績	H29実績	H30実績	H31実績
1 保育園・幼稚園・認定こども園・小中学校のフッ化物洗口実施率	フッ化物洗口事業実施施設の数/保育園・幼稚園・認定子ども園・小中学校の数	%	100	100	100	100
2 12歳児の一人平均むし歯数	12歳児における一人平均むし歯数	本	0.90	0.84	0.70	0.87
			0.89	0.76	0.77	

* 成果未達成時の理由 未実施の園は、実施しないことが園の方針であり、協力が得られないため。

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	市が実施するよう法令等で義務づけられている	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	法令等で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	市が事業へ関与する必要が薄れている	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
有効性 【23】	<input type="checkbox"/>	利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
公平性	<input type="checkbox"/>	事業開始当初の目的から変化してきている	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	
公平性	<input type="checkbox"/>	コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している	a
	<input checked="" type="checkbox"/>	直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	
公平性	<input type="checkbox"/>	民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある	
公平性	<input type="checkbox"/>	サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	a
	<input checked="" type="checkbox"/>	現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	
公平性	<input type="checkbox"/>	成果指標を設定している	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	成果指標の目標値を達成した	
公平性	<input type="checkbox"/>	現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる	
公平性	<input type="checkbox"/>	法定事務であり成果は求めにくい	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
公平性	<input type="checkbox"/>	事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	
公平性	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> 金額が妥当 <input type="checkbox"/> 金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】	【24】
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> 設定できる <input checked="" type="checkbox"/> 設定できない理由(受益者負担はなじまない。)	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	平成29年と同様、小中学校は全校実施できているが、2つの保育園・幼稚園の導入ができなかった。		
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続	総合判定	A
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	当初の計画どおり、全園及び全小中学校の導入を目指す。未導入園の2園については、フッ化物洗口事業の協力依頼文を送り、経過をみながら県や園歯科医と連携しながら、全園導入を目指していく。継続実施できている園及び小中学校については、安心・安全で確実な実施をができるように、初回実施時に職員が出向き、実施状況の確認と実地支援を行う。		
次年度への予算反映(連動)	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名)		
	<input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄

評価責任者(課長)の所見 【27】	一部の導入できていない園へ、引き続き実施への支援をしていく。また、導入済みの園・学校については、安心・安全な実施体制が維持できるよう支援していく。今後、この事業の効果判定を全国の統計などと比較しながら事業の検証を行っていく。	評価責任者 酒井 史浩
----------------------	--	----------------

《事務事業の手段と活動指標》 [18]

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
① 食育推進連携会議・作業部会業務	会議を開催し、計画の進行管理や事業の検討を行う。	会議開催回数	回	8	3	4	3
② たまな健康食育フェア開催業務	たまな食育フェア等を開催し「食」の重要性を伝える。	たまな食育フェア開催回数	回	1	1	1	1
③ 第3次玉名市食育推進計画策定事業	食育推進計画を策定する 計画実施期間 平成29年度から平成33年度まで	計画策定検討会議	回	4	***	***	***

《コスト評価による年度比較》 [19]

コスト評価	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	H31年度予算
	対象(食育推進連携会議・作業部会参加者数・食育講演会参加者数)	520	285	280
投入コスト合計(千円)	10,166	5,349	7,120	7,361
対象1単位あたりのコスト(千円)	20	19	25	26
コスト評価(対前年比)	***	104.16% (↑)	73.81% (↓)	96.73% (↓)

《事務事業の成果》 [20]

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標
			H28実績	H29実績	H30実績	H31実績
1 食育講演会参加者数	たまな食育フェア時の食育講演会の参加者数	人	200	200	200	180
2			350	200	180	

* 成果未達成時の理由 規模を縮小し、会場が狭くなったため。

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 [21]	<input type="checkbox"/> ・市が実施するよう法令等で義務づけられている <input type="checkbox"/> ・法令等で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> ・市が事業へ関与する必要が薄れている <input type="checkbox"/> ・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> ・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる <input type="checkbox"/> ・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> ・事業開始当初の目的から変化してきている <input checked="" type="checkbox"/> ・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない		妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い c
		<input type="checkbox"/> ・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> ・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい <input checked="" type="checkbox"/> ・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である <input type="checkbox"/> ・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある <input type="checkbox"/> ・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> ・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い c
有効性 [23]	<input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標を設定している <input type="checkbox"/> ・成果指標の目標値を達成した <input type="checkbox"/> ・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない <input checked="" type="checkbox"/> ・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる <input type="checkbox"/> ・法定事務であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> ・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> ・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している <input checked="" type="checkbox"/> ・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある		有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い c
		<input type="checkbox"/> ・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】 <input checked="" type="checkbox"/> ・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input checked="" type="checkbox"/> ・設定できない理由(受益者負担はなじまない) [24]	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 [25]	前回と会場が変わり、講演会会場を含めすべてのブースが狭くなったため、規模を縮小して開催した。会場内が飲食禁止の施設だったため、飲食できるスペースがほとんどなく、飲食物の提供数を減らして開催した。		
今後の方向性 [26]	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	総合判定	C
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	健康食育フェアの開催主旨、開催時間の再検討やブースの見直し等を行っていく。		
次年度への予算反映(連動)	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄

評価責任者(課長)の所見 [27]	第3次食育推進計画に基づき、各事業を実施継続する。健康食育・フェアについては、実施方法や費用対効果等を十分検証してゆく必要がある。	評価責任者 酒井 史浩
-------------------	---	----------------

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
① ヘルスアップ教室業務	食や運動等の学習会を開催することで食改の後継者を育成する。	教室開催回数	回	8	8	9	0
② ゆったりストレッチ教室業務	講師によるアロマ・エアロ等を取り入れた実技指導を行う。	教室開催回数	回	9	10	10	0
③ 健康診査等業務	生活保護受給者への健康診査及び肝炎検査、人間ドック受診者への歯周病・骨粗しょう症検診の補助を行う。	肝炎ウイルス検査受診者数	人	34	40	39	50

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	H31年度予算		
	対象(受講生、受診者数)	1464	1118	940	1050		
投入コスト合計(千円)	20,806	25,288	15,308	20,357			
対象1単位あたりのコスト(千円)	14	23	16	19			
コスト評価(対前年比)	***	62.83%	(↓)	138.89%	(↑)	84.00%	(↓)

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標
			H28実績	H29実績	H30実績	H31実績
1 食生活改善推進員協議会加入率	食生活改善推進員協議会加入者数/ヘルスアップ教室生数	%	70	70	70	70
2 ゆったりストレッチ教室参加率	ゆったりストレッチ教室出席者数/ゆったりストレッチ教室生数	%	80	80	80	—
* 成果未達成時の理由						

《事務事業の評価》

	評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input checked="" type="checkbox"/> ・市が実施するよう法令等で義務づけられている <input type="checkbox"/> ・法令等で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> ・市が事業へ関与する必要が薄れている <input type="checkbox"/> ・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> ・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる <input type="checkbox"/> ・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> ・事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> ・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
	<input checked="" type="checkbox"/> ・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している <input checked="" type="checkbox"/> ・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> ・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である <input type="checkbox"/> ・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> ・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> ・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い a
有効性 【23】	<input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標を設定している <input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標の目標値を達成した <input type="checkbox"/> ・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない <input type="checkbox"/> ・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる <input checked="" type="checkbox"/> ・法定事務であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> ・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> ・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> ・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い a
	<input type="checkbox"/> ・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】 <input checked="" type="checkbox"/> ・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input checked="" type="checkbox"/> ・設定できない理由(受益者負担はなじまない) 【24】	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	受診者の受診環境の利便性の向上を図り、安定した事業運営を実施した。		
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	総合判定	A
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	今後も引き続き、受診者のニーズを適切に捉え、さらなる安定した事業運営に努める。ヘルスアップ教室については、広報で募集してもなかなか集まらず効果がないため、ヘルスメイトの力を借りて興味がある方を集めていただき、学習会や活動の場にて養成する方法へ移行していく。ゆったりストレッチ教室業務については、平成30年度で終了。		
次年度への予算反映(連動)	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄

評価責任者(課長)の所見 【27】	ゆったりストレッチ教室及びヘルスアップ教室については業務改善を行い事業を終了するが、今後も担当地区保健師・管理栄養士が健康づくり活動の支援を行い、執行方法の改善を行って継続していく。	評価責任者 酒井 史浩
-------------------	---	-----------------------

《事務事業の手段と活動指標》 [18]

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
① がん検診事業	対象者に健診希望調査を行い、受診券を発送する。	健診希望調査発送数	人	35534	49689	49592	49267
②							
③							

《コスト評価による年度比較》 [19]

コスト評価		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	H31年度予算		
	対象(健診希望調査発送数)	35534	49689	49592	49267		
投入コスト合計(千円)	57,874	58,194	57,436	60,369			
対象1単位あたりのコスト(千円)	2	1	1	1			
コスト評価(対前年比)	***	139.07%	(↑)	101.12%	(↑)	94.52%	(↓)

《事務事業の成果》 [20]

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標
			H28実績	H29実績	H30実績	H31実績
1 検診受診率(胃)	29年度から計算方法を変更 受診者数÷がん検診対象年齢の全住民	%	30	30	30	30
			5.84	6.47	10.7	
2 検診受診率(大腸)	29年度から計算方法を変更 受診者数÷がん検診対象年齢の全住民	%	30	30	30	30
			10.24	10.86	10.0	

* 成果未達成時の理由 国保以外の受診者は、事業所検診で受診される方が多く本市の検診を受けられる方が少ないため。

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 [21]	<input checked="" type="checkbox"/> ・市が実施するよう法令等で義務づけられている	<input type="checkbox"/> ・法令等で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> ・市が事業へ関与する必要が薄れている <input type="checkbox"/> ・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> ・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる <input type="checkbox"/> ・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> ・事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> ・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	妥当性評価
	<input type="checkbox"/> ・市が事業へ関与する必要が薄れている		a 高い b やや高い c やや低い d 低い
<input type="checkbox"/> ・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	b		
<input type="checkbox"/> ・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる			
<input type="checkbox"/> ・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である			
<input type="checkbox"/> ・事業開始当初の目的から変化してきている			
<input type="checkbox"/> ・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない			
効率性 [22]	<input checked="" type="checkbox"/> ・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している		<input type="checkbox"/> ・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> ・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である <input type="checkbox"/> ・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> ・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> ・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
	<input type="checkbox"/> ・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	a 高い b やや高い c やや低い d 低い	
<input type="checkbox"/> ・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である	a		
<input type="checkbox"/> ・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある			
<input checked="" type="checkbox"/> ・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない			
<input type="checkbox"/> ・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある			
有効性 [23]	<input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標を設定している	<input type="checkbox"/> ・成果指標の目標値を達成した <input type="checkbox"/> ・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない <input checked="" type="checkbox"/> ・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる <input type="checkbox"/> ・法定事務であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> ・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> ・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> ・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	有効性評価
	<input type="checkbox"/> ・成果指標の目標値を達成した		a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/> ・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない		c
	<input checked="" type="checkbox"/> ・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる		
<input type="checkbox"/> ・法定事務であり成果は求めにくい			
<input checked="" type="checkbox"/> ・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している			
<input type="checkbox"/> ・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している			
<input type="checkbox"/> ・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある			
公平性	<input type="checkbox"/> ・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】		
	<input checked="" type="checkbox"/> ・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input checked="" type="checkbox"/> ・設定できない理由(検診業務については、医療機関に委託しているため) [24]		

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 [25]	肺がん検診巡回検診会場の見直しや巡回検診会場での大腸がん検診キットの回収を実施したが、あまり受診率に効果がなかったため、巡回会場の再検討や大腸がん検診キットの回収の周知に努める必要があるように思われる。		
今後の方向性 [26]	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	総合判定	C
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	周知方法の再検討や集団健診の土日の健診日数を増やすなど、より一層の受診環境の利便性を図り受診向上に努める。		
次年度への予算反映(連動)	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄

評価責任者(課長)の所見 [27]	がん検診受診により早期発見・早期治療につながり、最終的には死亡率低下に影響を与えるのは間違いない事実であり、受診者のニーズや利便性を的確に捉え、今後も受診率向上に努め、執行方法の改善を模索し、継続して事業を実施していく。	評価責任者 酒井 史浩
-------------------	--	----------------

《事務事業の手段と活動指標》 [18]

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
① レディース検診事業(乳がん・子宮頸がん)	対象者に無料クーポン券を送付し、検診費用を負担する。	クーポン券交付人数	人	716	718	673	664
②							
③							

《コスト評価による年度比較》 [19]

コスト評価		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	H31年度予算
	対象(クーポン券交付人数)	716	718	673	664
投入コスト合計(千円)	4,352	3,002	2,906	3,016	
対象1単位あたりのコスト(千円)	6	4	4	5	
コスト評価(対前年比)	***	145.37%	(↑)	96.83%	(↓)

《事務事業の成果》 [20]

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標
			H28実績	H29実績	H30実績	H31実績
1 レディース検診受診率(子宮頸がん)	クーポン対象者の受診率=受診者÷クーポン対象者	%	50	50	50	50
			12.8	8.63	13.33	
2 レディース検診受診率(乳がん)	クーポン対象者の受診率=受診者÷クーポン対象者	%	50	50	50	50
			39.9	36.9	32.68	

* 成果未達成時の理由 国保以外の受診者は、事業所検診で受診される方が多く本市の検診を受けられる方が少ないため。

《事務事業の評価》

	評価の視点	評価結果
妥当性 [21]	<input checked="" type="checkbox"/> ・市が実施するよう法令等で義務づけられている <input type="checkbox"/> ・法令等で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> ・市が事業へ関与する必要が薄れている <input type="checkbox"/> ・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> ・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる <input type="checkbox"/> ・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> ・事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> ・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
	<input type="checkbox"/> ・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> ・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> ・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である <input type="checkbox"/> ・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> ・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> ・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
有効性 [23]	<input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標を設定している <input type="checkbox"/> ・成果指標の目標値を達成した <input type="checkbox"/> ・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない <input checked="" type="checkbox"/> ・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる <input type="checkbox"/> ・法定事務であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> ・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> ・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> ・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い c
	<input type="checkbox"/> ・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】 <input checked="" type="checkbox"/> ・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input checked="" type="checkbox"/> ・設定できない理由(国からの補助事業であり受益者負担を求めるのは難しい) [24]	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 [25]	乳幼児健診において、子宮頸がん検診の勧奨チラシの配布を行った。子宮頸がんについては、受診率が上昇しているため一定の効果はあったと思われる。乳がん検診についても関係機関と連携・協力をいただき引き続き早期発見の重要性の周知に努め実施していく必要があると思われる。		
今後の方向性 [26]	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	総合判定	C
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	子宮頸がん検診の勧奨チラシの配布については、一定の効果があったため、さらに成人式などで対象者に対し受診を促がし、乳がん検診についても引き続き受診率の向上に努める。		
次年度への予算反映(連動)	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄

評価責任者(課長)の所見 [27]	子宮頸がん検診及び乳がん検診の対象年齢となる年度であり、また各がんの罹患率が上昇する年齢でもある。この年にクーポン券を配布し、各種がん検診を受診することの大切さを理解してもらう大事な機会でもあるため、今後も受診勧奨なども実施し、積極的に事業を実施していく。	評価責任者 酒井 史浩
-------------------	--	----------------

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
① 食生活改善推進員協議会支援業務	総会、研修会、学習会を開催し、推進員の活動を支援する。	研修会等延べ参加者数	人	289	465	424	420
②							
③							

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	H31年度予算
	対象(食生活推進員の活動参加者数)	2966	2210	2200
投入コスト合計(千円)	3,980	5,594	8,566	8,205
対象1単位あたりのコスト(千円)	1	3	4	4
コスト評価(対前年比)	***	53.01%	(↓) 65.01%	(↓) 104.40%

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標
			H28実績	H29実績	H30実績	H31実績
1 食生活改善推進員数	加入者数	人	200	180	170	170
			176	169	169	
2 食生活改善推進員地域活動回数	成人病予防や男性料理教室、災害食の講習会などの活動回数	回	2500	2500	2100	2100
			2966	2210	2,032	

* 成果未達成時の理由 会員の高齢化による活動意欲減退により、地域活動が低迷している。そのため地域にあった地域活動が出来るよう校区学習会の支援を行った。

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	市が実施するよう法令等で義務づけられている	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	法令等で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	市が事業へ関与する必要が薄れている	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
有効性 【23】	<input checked="" type="checkbox"/>	利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
公平性	<input type="checkbox"/>	事業開始当初の目的から変化してきている	c
	<input type="checkbox"/>	厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である	c
	<input checked="" type="checkbox"/>	電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある	
有効性 【23】	<input type="checkbox"/>	サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	c
	<input type="checkbox"/>	現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	
妥当性 【21】	<input checked="" type="checkbox"/>	成果指標を設定している	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	成果指標の目標値を達成した	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない	c
	<input checked="" type="checkbox"/>	手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる	
有効性 【23】	<input type="checkbox"/>	法定事務であり成果は求めにくい	c
	<input type="checkbox"/>	事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
公平性	<input type="checkbox"/>	事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している	c
	<input type="checkbox"/>	国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> 金額が妥当 <input type="checkbox"/> 金額が高すぎる、または安すぎる	【24】
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> 設定できる <input checked="" type="checkbox"/> 設定できない理由(受益者負担はなじまない)	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況	食生活改善推進員協議会と他団体との連携を取り、健康づくり・食育推進事業地域活動を行ったが、十分な活動が出来なかった。食生活改善推進員協議会の活動目的に「推進員自らが健康管理ができる」「地域で健康づくりの輪を広げることができる」とあるため、校区ごとの学習会を行い地域の健康づくりが出来るよう組織の支援を行った。会員の減少による組織体制の見直し、校区の統合については検討中である。		
今後の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続	総合判定	C
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	<input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止		
次年度への予算反映(連動)	<input type="checkbox"/> 増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> 減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄

評価責任者(課長)の所見	食生活改善推進員自らの健康管理ができることと地域で健康づくりの輪を広げることを支援するが、推進員自身の高齢化が進んでいる状況にあり、今後、組織の若返りや体制の見直し等検討していく必要がある。	評価責任者 酒井史浩
--------------	---	---------------

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31計画
① 妊産婦・乳児家庭訪問及び健康相談	支援が必要な妊産婦等の個別支援計画作成、相談及び家庭訪問等による支援実施。	母子保健支援員による授乳相談及び母乳ケア対応件数	件	***	43	69	70
② 妊産婦のための心理相談	精神的に支援が必要な妊産婦に対し心理相談員による個別カウンセリングの実施。一人最大3回までの利用。	参加実人員	人	***	12	23	20
③							

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H28年度決算		H29年度決算		H30年度決算		H31年度予算	
	対象(妊産婦、0~3歳児数)	0	1500	3026	2990			
投入コスト合計(千円)	0	10,126	7,707	8,411				
対象1単位あたりのコスト(千円)	0	7	3	3				
コスト評価(対前年比)	***	0.00%	(-)	265.05%	(↑)	90.54%	(↓)	

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標
			H28実績	H29実績	H30実績	H31実績
1 安心して妊娠・出産・子育てができていると思う者の割合	4か月児健診での健やか親子21問診項目	%	***	86.1	86	86
2 地域で子育てしたいと思う者の割合	3.6歳児健診での健やか親子21問診項目	%	***	81.7	88.7	96
			***	96.2	96	96
			***	95.1	95.4	

* 成果未達成時の理由 乳幼児健診でのアンケート調査結果のため

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	市が実施するよう法令等で義務づけられている	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	法令等で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	市が事業へ関与する必要が薄れている	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
有効性 【23】	<input type="checkbox"/>	利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
公平性	<input type="checkbox"/>	事業開始当初の目的から変化してきている	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	
	<input type="checkbox"/>	民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある	
	<input checked="" type="checkbox"/>	サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	
	<input checked="" type="checkbox"/>	成果指標を設定している	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	成果指標の目標値を達成した	
	<input type="checkbox"/>	現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる	
	<input type="checkbox"/>	法定事務であり成果は求めにくい	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
	<input type="checkbox"/>	事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> 金額が妥当 <input type="checkbox"/> 金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> 設定できる <input checked="" type="checkbox"/> 設定できない理由(受益者負担は馴染まない) 【24】	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	母子保健事業と利用者支援事業(母子保健型)とのすりあわせを行い、妊娠期から産後早期支援を充実させ、安心して妊娠・出産・子育てができるように支援した。		
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続	<input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	総合判定 A
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	要支援妊婦・特定妊婦の把握ができてきたところであり、今後は実態把握の充実に努め、妊娠期から支援ができるように関係機関との連携を強化していきたい。		
次年度への予算反映(連動)	<input type="checkbox"/> 増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> 減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄

評価責任者(課長)の所見 【27】	開設から1年半が過ぎ、少しずつ母子健康包括支援センターとしての機能を充実させながら妊娠期からの支援ができるようになってきた。今後も関係機関と連携を取りながら事業を展開していきたい。	評価責任者 酒井史浩
-------------------	--	---------------